

まちかどフォトニュース

おもしろいこと、珍しいもの、どんなことでもいいので耳よりな情報をお知らせください。
三好市 秘書人事課 ☎ 72-7646



災害に備え 三好浄化槽ネットワークと締結

三好市は災害時における浄化槽および水道施設の復旧支援活動に関する協定を10月13日、株式会社三好浄化槽ネットワークと締結し、黒川市長と株式会社三好浄化槽ネットワークの田原社長が三好市役所で協定書に調印しました。協定の内容は、さまざまな自然災害などにより、水道施設や浄化槽などが破損した場合、応急復旧工事や仮設トイレ提供等の支援活動について、取り決めたものです。田原社長から「地域と企業と市の三者が連携し、三好市がよくなるよう支援したい」とあいさつがありました。

明和クリーンと締結 災害時のために

三好市は、地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定を10月13日、株式会社明和クリーンと締結し、黒川市長と株式会社明和クリーン 楠本社長が三好市役所で協定書に調印しました。協定の内容は、地震等で大規模な災害が発生し、大量の災害廃棄物が発生した場合に災害廃棄物の撤収、収集、運搬、処理等の支援活動について、取り決めたものです。楠本社長から「災害が起きたとき、市民の生活が1日でも早く元どおりになるよう迅速に対応したい」とあいさつがありました。



落合重伝建 10周年シンポジウム

東祖谷落合の重要伝統的建造物群保存地区選定10周年記念シンポジウムが10月31日、東祖谷文化伝習ホールで開催されました。シンポジウムでは、元東京藝術大学客員教授の日塔和彦さんを講師に迎え、「茅葺き集落落合の保存と展望」と題し基調講演が行われました。日塔さんは、「茅葺き屋根の耐久年数は短くなってきている。技術者の育成が必要」と話されました。また、「山村集落落合の10年とこれから」をテーマにパネルディスカッションが行われ、東洋文化研究者のアレックス・カーさんら6人から地域の魅力を体験する観光業にもっと力を入れていくべきなどの意見が出されました。

第九合唱団が文化祭りで熱唱 ひきこもりの事例や支援を学ぶ 10年目を迎えた粉ひき節大会



第15回西祖谷文化まつりが10月11日、榎生小学校体育館で開催され、祖谷甚句や祖谷の粉引き節など伝統舞踊が来場者に披露されました。15回目を迎えた今回、総勢32名の三好市民第九合唱団が、祖谷地方に伝わる伝説を歌にした「秘境祖谷加羅宇多姫哀歌（作詞中川一男、作曲真鍋順紀）」など3曲を情感あふれる声で歌い上げ、会場から大きな拍手が送られました。また、榎生小学校の児童などによる生け花展や作品展示も行われ、華やかな一日となりました。



ひきこもりの方への支援について理解を深めようと10月8日、障害者定例支援会議の研修会が池田総合体育館で開催されました。講師を務めた秋田病院の高川明美さんからは、「ひきこもりは長期間になるため、どのような経過をたどっているかを見極め、相談者の主訴をしっかりと把握することが大切」と語られ、参加者は事例を通じて、ひきこもり支援について実践的に学ぶとともに、支援者間の情報交換を行い、支援体制の充実を図りました。



「祖谷の粉ひき節日本一大会」が10月3日から2日間にわたり、東祖谷歴史民俗資料館伝習ホールで行われました。祖谷を代表する民謡を後世に伝承していこうと始まったこの大会も今年で10回目を迎え、少年少女の部をはじめ、大人から子どもまで全国各地から69名の民謡愛好者がエントリーし、歌唱力を競い合いました。総合優勝は大阪府からお越しの小田かつよさんで、素晴らしい歌声に会場から大きな拍手が送られました。また、歴代の優勝者による民謡披露も行われ、舞台に華を添えました。

祖谷平家まつりで郷土芸能を披露

かずら橋夢舞台で10月25日、祖谷平家まつりが開催され、平家落人伝説を題材にした創作劇や加羅宇多姫伝説劇、祖谷衆太鼓、祖谷に伝わる民謡・民舞などが披露されました。また、三好市出身の浄瑠璃人形遣い勘緑さんによる、浄瑠璃公演も行われました。創作劇では、地元住民グループ「祖谷十八人会」と東祖谷の小中学生らが「別離二つ」を熱演し、観客を魅了しました。終演後、恒例の平家の武士や侍女などに扮した武者行列が行われ、会場内を練り歩き、訪れた大勢の観光客がカメラに収めていました。



180体のかかしがお出迎え

東祖谷名頃のかかしの里で10月4日、天空の郷かかしまつりが開催されました。旧名頃小学校やその周辺に展示された約180体のかかしが来場者らを出迎え、楽しませました。また、地元住民による祖谷そばやあめごの塩焼きなどのバザーも多く出店し、にぎわいました。そのほか、かかし作り体験も行われ、10人が参加しました。アルゼンチンから来たマリアさんは、「かかしをつくるのは時間がかかるし、表情をつけるのが難しいけれどとても楽しい」と真剣に1針1針心を込めて、かかしの顔にボタンで目をつけるなどして完成させました。



観客を魅了 そらの郷コンサート

第8回三好市民文化祭のオープニングイベントとしてそらの郷コンサートが10月5日、池田総合体育館で行われました。世界的指揮者の秋山和慶さんを音楽監督・指揮に迎え、徳島に共感を持つプロの音楽家で構成されたとくしま記念オーケストラにより、オフエンバックの「天国と地獄」やロジャースの「サウンド・オブ・ミュージック」など12曲が演奏され、観客約400人は美しい音色に聞き入っていました。ブラスバンド部に所属している池田高校2年の岡田輝菜さんは、「音の世界感がすごくて、感動しました」と話しました。

世界大会を前にザ・リバーフェイスが表敬訪問

11月29日から12月8日までインドネシアで開催されるラフティングの世界大会に出場する女子日本代表チーム「ザ・リバーフェイス」の水澤知香主将ら5名が11月2日、出発を前に黒川市長を表敬訪問しました。昨年のブラジル大会は2位と惜しくも優勝を逃したこともあり、王者返り咲きを目指し吉野川で日々トレーニングを重ねてきた選手たち。水澤主将からは「目標は優勝。6人制のレースになるが大会を通じて成長していきたい」抱負を語ってくれました。現地での健闘を期待しています。



子どもたちがまちに繰り出す



異文化に親しんでもらおうと「うだつの町のハッピー・ハロウィンパーティー」が10月10日、中央公民館やその周辺で開催されました。魔女やお姫様、海賊などに仮装した子どもとその保護者ら約200人が参加し、かぼちゃをくり抜き、その中にLEDライトの明かりをとすジャック・オランタン作りに挑戦しました。その後、本町通りで事前にご協力いただいていた商店や民家などに子どもたちが繰り出し、「トリック・オア・トリート（お菓子をくれなきゃいたずらするぞ）」と口ずさみ、楽しそうにお菓子をもらいました。

困ったら一人で悩まず行政相談



行政相談週間にあわせて10月23日、フレスポ阿波池田で「特設行政相談所」が開設されました。行政相談週間は、行政相談制度の周知と利用促進を図るため、総務省が全国一斉に実施しており、この日は、三好地区の行政相談委員と総務省徳島行政評価事務所の職員らが、PR活動を行うとともに、市民の方からの相談に応じました。三好市では各地区の行政相談委員が月1回、相談所を開設しておりますので、お気軽にご相談ください。（日程は24ページに掲載）

三好市の秋の味覚を発送



秋の味覚を通じて三好市の魅力を知ってもらおうと10月16日、「三好やまびこふるさと会」によるふるさと小包の発送作業が市役所分庁舎で行われました。新米、祖谷そばや源平いもなど特産品10品目と東祖谷の「祖谷の地美米」で加工された鹿もも肉のレシピ一覧表などを職員らが丁寧に箱詰めし、全国の愛好者の方へ発送しました。同会では、年2回ふるさと小包の発送をしています。大切な方への贈り物としていかがでしょうか。お申し込み・お問い合わせ先は、三好やまびこふるさと会（☎72-7645）

野菜たっぷりの芋煮に舌鼓



伊予川を環境を保全し、将来に残していくことを目的に秋の催しとして定着している伊予川芋煮会が、11月1日に行われました。大鍋に用意された芋煮は、地元で取れた新鮮なニンジンや椎茸や白菜、こんにゃくなどがふんだんに使われていて、訪れた来場者に振る舞われました。このほか会場では、政友小の児童が地元の茶畑で摘んだ政友茶や学校で育てたサツマイモなどのバザー、児童作品展やラフティング体験なども行われ、多くの家族連れらで賑わいました。

百年蔵で青空マーケット



自然の多い場所で、若い人に自然にふれてもらえるきっかけになればと「自然の暦マーケット」が10月31日、池田町川崎にある百年蔵で行われました。マーケットには、オーガニック食材や材料を使ったお弁当や雑貨など三好市内外から20店舗が出店し、多くの来場者でにぎわいました。また百年蔵の中では、インドの楽器を使ったライブも行われ、来場者は自然と心地よい音楽に癒されていました。その他にもマチトソラ芸術祭の期間中ということもあり芸術祭の関連グッズも販売されました。

防災士育成に向け出前講座



地域防災活動の中核を担う防災士の育成を図っていくと10月31日、県防災人材センターによる一日防災講座が西部県民局三好庁舎で開催されました。講座は徳島大学大学院の中野晋教授ら5人が講師を務め、防災士に期待される役割について説明があったほか、インターネットを使用して徳島大学と会場を結ぶ講義や実習指導など遠隔講座も開催されました。講座に参加した池南新山自主防災会長の中津哲一さんは、「今日の講座を生かし、地域防災力を高めていきたい」と決意を語ってくれました。



勇壮華麗に武者行列

三好市にゆかりのある戦国武将・三好長慶を生かして地域活性化を図ろうと11月1日、「三好長慶武者行列まつり」が三野グラウンドで開催されました。武者行列では、市民や県内外の長慶ゆかりの団体約200人が参加。よろい姿の武将や旗持ちなどに扮し、出陣式で勝ちどきを上げた後、会場周辺約4キロを勇壮華麗に練り歩き、訪れた見物客を楽しませました。今回大阪府大東市から参加した同観光ボランティアガイドやまびこの高橋洋会長は、「これからも交流を深めるとともに大東市の武者行列まつりの実現にもつなげていきたい」と抱負を語ってくれました。

祖谷襖からくり 幻想的な舞台を披露

第6回夜間公演祖谷襖からくりが後山農村舞台と徳善阿弥陀堂横広場の2開場で行われました。10月24日の徳善阿弥陀堂横広場で行われた公演では、約80人の観客が伝統芸能を楽しみました。阿弥陀堂内に組み立てられる移動組立式からくり舞台上、迫力ある「龍」や「鳳凰」などの図柄を三味線の音色に合わせ、細い糸を操りながら次々と転換し、観客を魅了。また、加羅宇多姫伝説劇や祖谷粉ひき節踊り、三好市出身の浄瑠璃人形遣いの勘緑さんによる公演なども行われ、かり火のなか、幻想的な舞台が披露されました。

